

デマンド交通、約半数が利用したい

～10代、70代のデマンド交通の利用意向が高い～

まとめ

調査結果：

- ① デマンド交通を利用してみたい意向が約半数。
- ② 10代と70代が他の年代と比較するとデマンド交通の利用意向が高い。

■ 調査結果

1. デマンド交通の利用意向、約半数が利用してみたい

現在、日本ではデマンド交通への取り組みが積極的に推進されている。各地でも実証実験が多く行われており、商用導入に向けた取り組みが行われている。また国土交通省では「多様な地域公共交通サービスの導入状況に関する調査研究」を2018年6月に発表している¹。海外でもUber（ウーバー）などの携帯電話を利用したデマンド交通サービスが活用されている。

NTTドコモモバイル社会研究所では、以上のような社会背景を踏まえて、デマンド交通の利用意向に関する調査を2019年1月に実施した。

デマンド交通とは利用者が電話・Webなどで乗車を予約することで利用する交通手段のこと（詳細は補足1に後述）。

自分が住んでいる地域におけるデマンド交通について聞いたところ「利用してみたい」（9.8%）「まあ利用してみたい」（35.6%）をあわせて、約半数（45.4%）がデマンド交通を利用してみたいという回答が得られた（図1）。

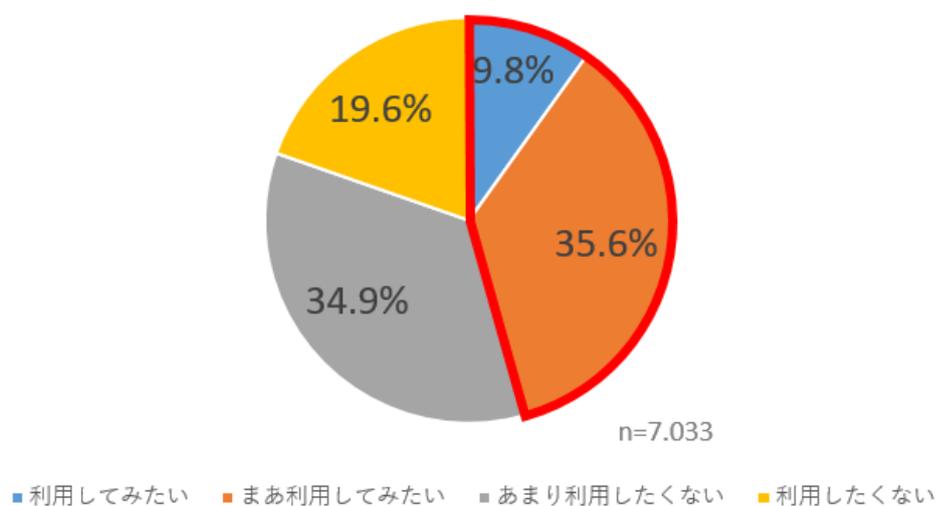


図1. デマンド交通の利用意向

¹ 国土交通政策研究第147号『多様な地域公共交通サービスの導入状況に関する調査研究』（2018年6月）<http://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/pdf/kkk147.pdf>

また男女別の利用意向では女性の方が男性よりも若干、利用してみたいという割合が多かった（図2）。年齢別でみると、10代、70代ではデマンド交通の利用意向が他の年代と比べて高かった（図3）。

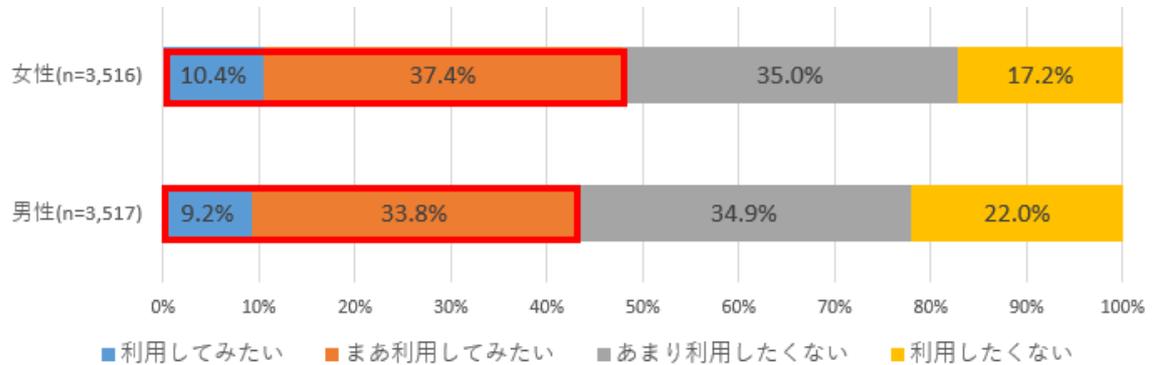


図2.デマンド交通の利用意向（性別）

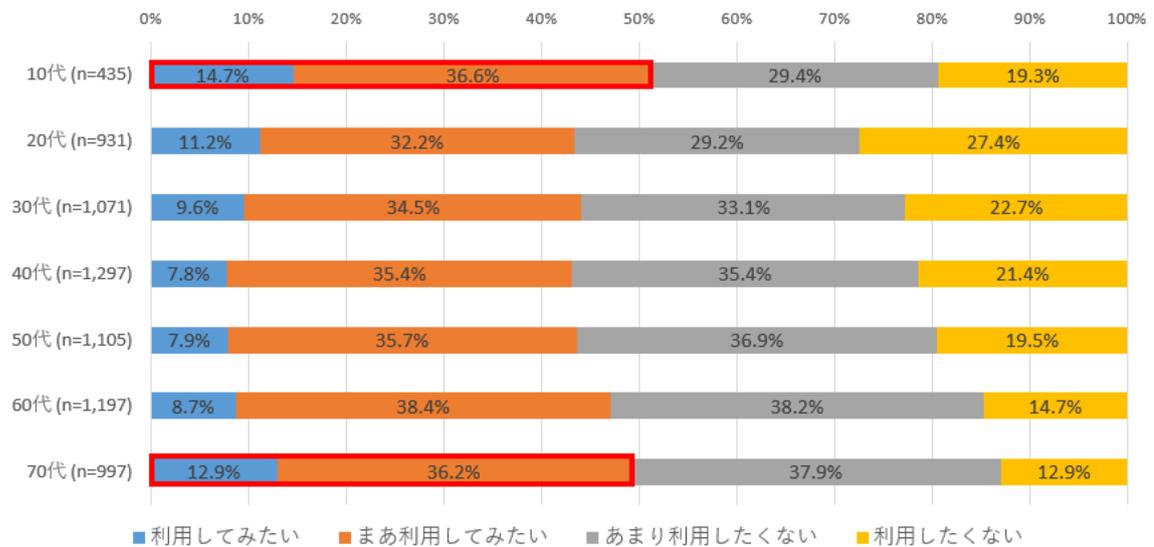


図3.デマンド交通の利用意向（年代別）

(補足1) デマンド交通の定義

2019年1月の調査ではデマンド交通を以下のように定義してWebアンケートにより調査を実施。

これまでの路線バスやコミュニティバス、タクシーとも違う交通手段で、予約を受けて出発した車両があらかじめ決められた乗降場所まで行き、利用者を巡回しながら相乗りで目的地の乗降場所まで運行するもの。利用者の有無によって、運航ルートを変更したり、停車する場所を減らしたりして、路線バスより早く便利に、タクシーより安く乗れる新しい交通手段。地域によって名称は異なるが、大きく分けて以下の2つのタイプがある。

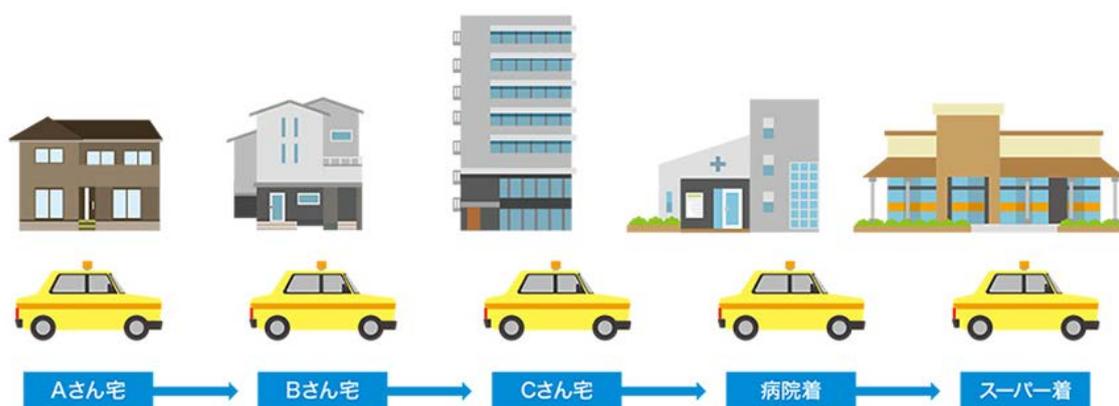
(1) 予約バス型

路線バスやコミュニティバスのように、所定のバス停などで乗降を行うが、予約があった場合のみ運行し、予約がなければ運行しない方式。また所定のルートを設定する一方で、予約に応じて停車するバス停を増やす(迂回する)方式もある。



(2) 乗り合いタクシー型

運行ルートやバス停は設けず、予約があった場合に出発地から目的地まで運行するドアツードアのサービスを提供する方式で、同じ方面への予約があった場合に、巡回しながら、他の利用者と乗合をする。目的地または出発地を限定する方式もある。



■調査概要

調査名：「デマンド交通に関する調査」

調査対象：全国・15～79歳男女

調査方法：Web

標本抽出法：QUOTA SAMPLING、性別・年齢（5歳刻み）・居住地域区分のセグメントで日本の人口分布に比例して割付。

調査時期（サンプル数）：2019年1月（7,033）

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com

（本レポートに記載したすべての商品名、ブランド名は、各社の商標または登録商標です。）